

令和元年度(2019年度)高等学校OPENプロジェクト実施報告書(2年次)

研究指定校	北海道静内農業高等学校	教育局	日高教育局
-------	-------------	-----	-------

1 研究主題	
馬で地域の活性化～強い馬づくりと馬産地日高の魅力発信～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
5月	・馬研究班の生徒15名が「しずない桜まつり」の会場において、新ひだか町の馬産業についての認知度調査を実施した。
6月	・生産科学科3年馬コース11名が科目「馬利用学」の授業で、平取養護学校静内ペテカリの園分校の小中学部及び高等部42名の生徒を招き、乗馬交流を2回行った。
7月	・新ひだか町役場と連携し「うまキッズ探検隊2019～静内農業高校編～」の受入れを行い、馬研究班の生徒21名が馬の魅力を伝えるイベントを実施した。
8月	・生産科学科3年馬コース11名が科目「馬学」の授業において、本校生産馬「桜翔(はると)」を北海道市場サマーセールに上場した。
9月	・日本農業教育学会「高校生ポスター発表」にて、軽種馬研究班・馬利用研究班の生徒各1名がポスターセッションを行った。
10月	・生産科学科馬コースの生徒21名を対象に、ナチュラルホースマンシップを取り入れた馬の調教学習を実施し、外部講師として乗馬施設MKランチの根城健太氏を招き、科目「馬利用学」の授業や馬利用研究班の活動において4回行った。 ・生産科学科3年馬コースの生徒を対象に、科目「馬利用学」の授業において北海道大学静内研究牧場を訪問し、日本在来馬「北海道和種」の学習を行った。 ・馬研究班2年10名が、新ひだか町役場と連携し町長がバスガイド「新ひだか町編」の受け入れを実施した。 ・北海道ふるさと・みらい創生推進事業「全道フォーラム」において、生産科学科馬コースの生徒1名が代表して中間発表を行った。
11月	・馬研究班2年10名が、桜丘小学校3、4年生13名を本校に招き、「馬の授業」を2回実施した。 ・生産科学科2年馬コースの生徒を対象に、科目「馬利用学」の授業において新ひだか町博物館学芸員の斉藤大朋氏を招き、日高が馬産地となった背景について学習した。

12月	<ul style="list-style-type: none"> ・科目「馬学」の授業において、生産科学科2年馬コースの生徒10名がJRA日高育成牧場の富成雅尚氏を講師として招き、当歳馬の育成と調教について学習した。 ・馬利用研究班の代表3名が国際ソロプチミスト静内において活動発表を行った。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・生産科学科2年馬コース8名の生徒が科目「馬利用学」の授業において、乗馬技術向上のため、ライディングヒルズ静内での乗馬実習を実施した。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・生産科学科3年馬コース11名の生徒が科目「馬利用学」の授業において、乗馬技術向上のため、ライディングヒルズ静内での乗馬実習を実施した。 <p>※科目「馬学」の授業においては、日本軽種馬協会と連携し、繁殖牝馬の種付けや妊娠鑑定の見学と、外部講師を招き飼養管理及び肢蹄管理の学習を、年間を通して行っている。</p> <p>※軽種馬研究班は年間を通じGPSを用いた馬の行動調査を実施した。</p>

3 地域みらい連携会議の開催内容

第 1 回	令和元年6月24日（火）15：30～17：00
出席者	西村委員、遊佐委員、中島委員、中村委員
協議内容	平成30年度事業報告、令和元年度実施計画について説明
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・静内農業高等学校の馬生産の成果をGPSデータ（運動量）で出すなど、科学的に可視化できる取組を今後も推進してほしい。 ・地域の方に馬を知ってもらう機会づくりの中で、そのきっかけを静内農業高等学校が作り、馬に触れて乗ってもらうことを今後も続けてほしい。 ・馬産業・馬文化についての学習先として競馬界は多くのデータや貴重な資料があると思うので連携すると良い。

第 2 回	令和元年9月30日（月）15：30～17：00
出席者	西村委員、遊佐委員、中村委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度中間実施報告 ・今後の事業について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・馬関連産業への就業数増加に繋がると良い。 ・魅力のある学校なので、地域の代表として情報を積極的に発信してほしい。

第 3 回	令和2年2月18日(火) 15:30~17:00
出席者	西村委員、遊佐委員、中島委員、中村委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度～令和元年度実施報告 ・令和2年度の事業について(完成年度)
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・データの使用については母集団を明確にすると良い。 ・町民が「馬」の魅力を深める機会を設ける工夫を継続的に取り組んでほしい。

4 研究の成果と課題	
-------------------	--

(1) 目的の達成状況

- 実践研究においては、馬産地の教育力を活かして生徒が学んだり、地域の子もたちに馬の魅力を伝えたりすることで、馬産業の後継者育成という課題解決に向け活動することができた。
- 実施した外部講師の招聘や地域の馬関連施設を活用した授業を通して、「外部講師の授業によって専門性が高まったか」とのアンケート結果では、「高まった」と答えた生徒が80%、「外部講師の授業によって学習意欲が高まったか」とのアンケート結果では「大いに思う」と答えた生徒が89%であったことから、専門的な学習の定着及び学習意欲の向上が確認できた。

(2) 目標の達成状況

- 科目「馬利用学」の授業の中で学んだ馬の調教技術を使い、生徒たちが自主的に話し合っって新しいイベントのプログラムを考案するなど、学んだ知識・技術を活用できる生徒が増加した。また、「地域の方々と連携した取組により、新ひだか町の一員である自覚が高まったか」とのアンケート結果では、「大いに思う」と答えた生徒が84%と、地域の一員であることを生徒に自覚させることで意識を高めることができた。
- 地域の教育力を取り入れることで、軽種馬生産及び馬利用に必要な知識や技術を身に付けさせることができた。
- 地域住民を対象に実施した、「新ひだか町は馬の町だと感じるか」とのアンケート結果では、187名中61名が「いいえ」と回答したことから、地域へ向けた馬の魅力発信を検討する必要がある。

(3) 実践研究の規模

- 生産科学科馬コースを中心に、校内体制を整備して実施できた。
- 本指定事業の実践内容の継続を目指し、カリキュラムマネジメントを推進する。

(4) 研究成果の普及

- プッシュ型SNS (Instagram、Facebook、Twitter) を導入したことで、広く情報発信をすることができた。
- 地域住民に対する情報発信が不十分なため、3年目は、情報の発信方法や手段を改善し、研究成果の普及に努める。

(5) 実践研究内容

- 馬産地の馬文化及び歴史学習後、1月に実施した生徒の授業アンケートでは、「新ひだか町の馬産業について理解を深めることができたか」との問いに全員が「思う」と回答した。
- 馬コースの生徒10名を対象にした、知識の定着度調査では、栄養管理や牧草に関する学習及び血統や交配に関する学習、繁殖に関する学習、肢蹄に関する学習の4項目において9割を超える正答率であり、軽種馬に関する基本的な知識の定着が確認できた。

(6) 地域みらい連携会議

- プッシュ型の情報発信の方法について助言を得たことにより、情報発信の方法や手段について理解を深めることができた。
- 生徒が会議内でプレゼンテーションを行うことにより、プレゼンテーションスキルやコミュニケーションスキルを向上させることができた。
- 構成員の方々からいただいた助言や支援により、取組を充実させることができた。

5 プロジェクトの達成状況

(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

学校全体として、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。

(評価した理由)

生産科学科馬コースでは、昨年度よりも計画的に取組を実践することにより、馬産業を担う人材に求められる資質・能力を向上させることができた。

(2) [評価の観点] 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。

(評価した理由)

新ひだか町や地域の産業界、地域の小学校と連携した取り組みを推進するとともに、地域みらい連携会議においては成果や課題を共有し、今後の進め方についての助言をいただくことができています。

(3) [評価の観点] 生徒の主体性について

(評価)

生徒は、地域社会の一員としての主体性を持って取り組むことができています。

(評価した理由)

前述のアンケート結果から、地域の一員として生徒の自覚が高まっていることが分かる。様々な取組において、生徒が自ら計画し、行動に移すことができおり、主体性が確実に身に付いている。

(4) [評価の観点] 地域課題の解決状況について

(評価)

取組により、地域課題の解決につなげることができた。

(理由)

馬産地の担い手不足解消の根本的な解決には長い時間が必要である。解決に向け、長期的な取り組みが必要であり、地域の馬事関係者の方々からは継続することが大切であるという評価をいただいている。

6 今後の取組

- ・地域へ向けた研究成果の還元及び効果的な馬の魅力の情報発信について、関係機関と連携し改善を図る。
- ・本指定事業の実践内容の継続を目指し、カリキュラムマネジメントを推進する。
- ・馬産業の担い手不足解消に向けたデータの蓄積及び分析を行う。

7 参考資料

(1) ナチュラルホースマンシップを取り入れた馬の調教学習の様子



日頃管理している馬を用いて調教について学習した。馬を活用する上で重要な安全な馬づくりを念頭に置いたホースマンシップ理論の説明と馬の行動改善のための具体的な方策について実馬を使って実践した。

(2) ライディングヒルズ静内での乗馬実習の様子



馬コース2、3年生が今年度の乗馬実習のまとめとして、ライディングヒルズ静内においてインストラクターの指導の下、乗馬を行った。初心者と経験者のグループで分かれて、レベルにあった指導を受け、乗馬技術向上のためのアドバイスを一人ひとりいただくことができた。

(3) 桜丘小学校3・4年生を招いての「馬の授業」の様子



生徒が講師役となり「馬博士になろう！」をコンセプトに実施した。第1回の授業では、馬の基礎知識のクイズや馬の乗り方、手入れの仕方についての説明、第2回の授業では、馬の乗り方を復習し、安全に調教した馬を用いて乗馬を実施した。

(4) 平取養護学校静内ペテカリの園分校との乗馬交流学习の様子



科目「馬利用学」の乗馬療育の授業において、障がい者乗馬の実践を行った。馬に乗って行うレクリエーションを生徒が考え、輪投げやキャッチボール、スラローム、お菓子キャッチなどを実施した。

(5) 日本在来馬「北海道和種」についての学習の様子



北海道大学静内研究牧場を訪問し、牧場の歴史や研究内容、日本在来馬「北海道和種」の生態などについて学習した。乗馬もさせていただき、北海道和種の特徴的な歩様である“側対歩”を経験することができた。

(6) 馬産地の歴史学習の様子



新ひだか町博物館学芸員の斎藤様をお招きし、新ひだか町が馬産地となった背景について講義をしていただいた。かつて新ひだか町が馬産地として栄えていた頃の様子を記録した貴重な史料である8ミリフィルムの映像を見せていただくことができた。

(7) 日本農業教育学会「高校生ポスター発表」の様子



北海道教育大学旭川校で開催された日本農業教育学会の高校生ポスター発表に参加した。大学教授等の専門家に自分たちの活動内容を紹介し、それに対して助言をもらうことで今後の活動の参考にすることができた。

(8) 町長がバスガイド「新ひだか町編」 受け入れの様子



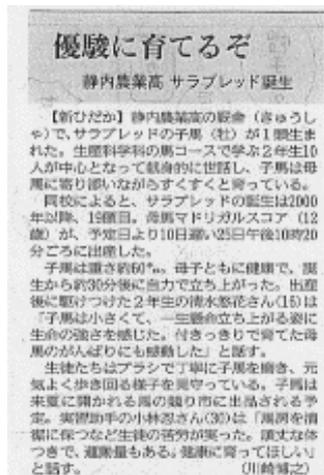
札幌近郊から静内へバスツアーに来た方に対して、静内農業高校の活動内容を紹介した。厩舎での馬の紹介や馬との触れ合い、馬術部の見学等のほか、本校生産物の試食を実施した。

(9) 国際ソロプチミスト静内への活動発表の様子



地域住民への情報発信の一環として実施した。馬利用研究班の活動内容を中心に発表した。交流会では、活動内容について質問をもらったり、今後の活動に向けてのアドバイスもいただくことができた。

(10) 「北海道新聞」(2019. 5. 31) 子馬の誕生についての記事



(11) 「十勝毎日新聞」(2019. 6. 3) 子馬の誕生についての記事



(20) 雑誌 北海道地方創生ジャーナル「創る」 (2019年10月号表紙)



(21) 雑誌 地域と農業 (2020年1月号)

